

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	広島県立福山商業高等学校	校長	神田 浩二	担当者名	井手之上 訓芳
-----	--------------	----	-------	------	---------

取組事例名 『学校を元気にする部活動の成果発表』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

- 他者と目的を共有し，主体的に協働する力。
- 自分や他者の価値・存在を肯定し，互いに尊重することができる力。

取組のねらい

部活動での活動の成果をクラスメイトに向けて発表することで，本校生徒としての自分の価値や存在感，自己肯定感を高める。

生徒たちに企画，運営させることで，主体性やコミュニケーション能力を育成する。

取組の具体的内容

○ ダンス部による発表
11月と1月の昼休みを利用し，本校中庭でのダンス発表を行った。新型コロナウイルスの影響により，学校行事（遠足，文化祭，体育祭等）が中止になったことで，気持ちが落ち込んだ生徒達を元気づけたいという生徒の要望から実現した。



○ 器楽部による発表
2月8日（月）の放課後，体育館で演奏会を行った。11月に行われたダンス部の発表を受け，器楽部員からも学校を盛り上げたいという要望から企画した。演奏する曲目や演出，運営についても生徒が全て計画した。

取組の創意工夫

- ダンス部
 - ・企画書の作成や生徒会への交渉，新型コロナウイルス感染防止対策など，生徒が主体となって計画した。
 - ・マスク着用の呼びかけや，事前に生徒への告知や案内放送を行うなど，観戦のルールを明確にした。
 - ・昼休みの限られた時間を利用するため，何度も放課後練習と細かい時間配分をし，学校生活に影響を与えない工夫をした。
- 器楽部
 - ・観客数を把握するため，事前予約をした生徒のみの来場とした。

取組の成果と課題

成果

- ・1月の発表会を3年生部員の最後の発表の場と設定できたことで，練習の成果を力いっぱい発揮して踊ることができていた。
- ・器楽部の発表では，生徒自身が計画したイベントをスムーズに運営できたことで，生徒の自信につながった。発表後の反省会では，今後もより良い演奏会を実施するため建設的な意見を出す姿が見られた。

課題

- ・コロナ感染予防から学校行事が思うように開催できない中での企画だったため，運営上の不備や教職員間の連携不足などがあった。生徒会のバックアップがあれば，生徒同士が当事者意識をもって協働できる場面をつくることができた。次回の企画に生かしたい。